

**第7回北海道集落総合対策事業幌加内町（母子里地区）地域協議会
母子里地区地域づくり協議会（議事要旨）**

■開催日時

平成26年8月25日（月） 18:00～20:00

■開催場所

幌加内町母子里コミュニティセンター研修室

■出席委員等

＜委員＞

多田会長、橋本委員、日野委員、若山委員、渡来委員、岡本委員、
小野田委員、大野委員、蔵前委員

＜幌加内町＞

総務課 宮田補佐
地域おこし協力隊 安齊隊員、高橋隊員

＜事務局(北海道)＞

総合政策部地域づくり支援局地域政策課 三上課長、西田主幹、田中主査
上川総合振興局地域政策部地域政策課 堤課長

■開催概要

1 挨拶

三上課長：本日はご多忙のところ、また、夕刻にもかかわらず、お集まりいただき感謝申し上げます。さて、本協議会は、昨年6月に1回目の会議を開催して以降、本日の会議で7回目となるが、これまでの間、委員の皆様による熱心で活発な議論が交わされているとお聞きしている。本年3月には、この母子里地区の将来を見据えたためざす姿や、今後の取組の方向性などをまとめられたことに対し、心より敬意を表する次第。今年度から取り組まれる山菜などの地域資源を活用したビジネス化の検討や、大学やNPOとの連携によるイベントなどが、総務省の「過疎集落等自立再生対策事業」の採択により1000万円の予算が確保され、また、こうした取り組みの中心となって活躍される地域おこし協力隊として、安齊さんと高橋さんのおふたりが、この母子里に住まわれたことにより、いよいよ実現に向けて具体的に動き始めたことは、大変すばらしいことと思う。道では、昨年度に引き続き、皆様方をはじめとした3地区のモデル事業の取組に加え、今年度は、集落の地域資源を活用したビジネスモデルの取組や、集落を将来的に支えていく人材の育成などにも取り組んでいくこととしており、ここ母子里地区をはじめとした各モデル地区の取組を積極的にサポートしてまいりたいと考えているので、今後とも、よろしく願います。

西田主幹：本日の会議では、各委員の皆様によるこれまでの間のさまざまな議論を踏まえながら、国の交付金を活用して本年度から取り組まれる高齢者支援、地域交流、地域資源の発掘・活用、地域コミュニティの活性化といった、4つの柱に沿った各種の事業の具体的な進め方についてご議論をいただきたいと考えている。それでは、早速、議事に入らせていただく。この後の進行は、多田会長にお願いする。

多田会長：先日の全道的な大雨の影響により、朱鞠内湖周辺でもかなりの雨量があり、ここ母子里でも浄化槽が溢れる家があるなど、非常に心配の多い数日間であった。さて、本日の会議では、先ほど説明のあった4つの柱に沿った具体的な取組について、これまでの議論を踏まえながら、内容を少し煮詰めていきたいと考えている。先日、地域おこし協力隊のおふたりがここ母子里に来られたこともあり、まずは出来ることから、一步一步、着実に取組を進めていきたいと思う。先ほど、三上課長から本日で7回目の会議とお話があったが、地域の有志による会合を含めると、10回を超える回数になるかと思う。こうした取組は地域住民による話し合いだけでは、なかなか進まないのが現状であり、役場や道の関係者など、行政の方々のしっかりとしたサポートを大変ありがたく思う。これまでの議論を通じ、地域の資源である山菜を活用した取組など、具体的な取組に着手することとなるが、こうした取組を地域の住民同士の話し合いにより決めることができたことは、非常に大きい。今後、取組を進めていく段階においては、色々と問題が出てくるかとも思うが、まずは、はじめの一步を踏み出せたことを大変うれしく思う。

2 議事

(1) 平成26年度の取組について

※宮田補佐より、資料に沿って説明

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今、宮田補佐から説明のあった交流拠点として整備するコンテナハウスについては、壁面に既に断熱材が入っている冷凍コンテナを活用したいと考えている。また、暖房設備や厨房設備などについては、今後、全体予算の執行状況などを見極めながら検討していきたい。将来的には飲食物の提供を考えていきたいが、浄化槽設置の問題など色々と課題もあるので、当面は、物品販売と地域の方々が集まれる場所として活用できればと考えている。

若山委員：当初計画と比較する形で資料が示されているが、変更された内容が今ひとつわからないので、当初計画から変更のあった点を中心に、事業費の増減の理由や取組の内容など、もう少し詳しく説明をお聞きしたい。

宮田補佐：変更のあった点を中心に説明を補足すると、高齢者支援事業は、生きがいづくり活動として使用する車輛について、当初計画していた車輛よりも、多人数で利用できるよう大きめの車輛に変更し、リース代や燃料費など事業費を増額したもの。また、地域交流イベント事業及び地域資源発掘・活用事業では、当初計画では、各種のイベントや、講師を招聘した講演などを予定していたが、必要最小限の取組に内容を精査し、事業費を減額している。いずれにしても、細かい部分については、取組を進めていく中で、適宜、内容を見直していきたい。

多田会長：細かい部分については、今後、色々と煮詰めていかなければならない部分も多くある。この後ご説明するが、それぞれの4つの柱に沿った部会のようなものを組織し、それぞれの部会で具体的に協議していただければと考えている。

若山委員：今後、細かい部分については、各部会で決めていくことになるのか。

多田会長：基本的には、そのように考えている。ただし、ベースとなる部分については、これまでの議論で方向性が出ているので、これまでの流れに沿って進めていただければと考えている。

小野田委員：今回、総務省の「過疎集落等自立再生対策事業」が採択され、具体的な取組を進めていくことになるが、旭川大学のご協力をいただきながら取り組む地域交流イベント事業などは、今後、具体的な内容を協議していくこととなる。その他の事業についても不確定な要素も多く、取り組みを進めていく中で、適宜、事業費など内容を見直していくこととなるので、この辺のところを留意しておく必要がある。特に旭川大学との連携では、山菜マップの作成や、写真ツアー、除雪ツアーなど、秋や冬の交流イベントとして実施できればと思うが、こうした人的支援が必要な取り組みなど、端的にいうと、事業費があれば出来るものと、事業費があっても出来ないものもあり、逆に、事業が無くても出来るものもあるので、密接に連携しながら進めていければと思う。

多田会長：高齢者支援事業や、地域コミュニティ活性化事業については、車輛リースや、拠点の整備など、事業の性質上、発生する経費が固定しているので、事業費の増減はあまりないように思われる。いずれにしても、細かい部分については、各部会で煮詰めていただきたい。

西田主幹：地域コミュニティ活性化事業のコンテナハウスについてであるが、具体的な運用開始はいつごろを予定しているか。

小野田委員：9月上旬には仕様を固めて発注し、2ヶ月後の11月上旬には設置したいと考えている。

西田主幹：地域コミュニティ活性化事業のコンテナハウスについては、交流拠点として設置するものであり、設置後の活用方法についても考えていく必要がある。当初は物販なども計画していたかと思うが、地域の方々が集まれる地域カフェのような形で活用いただくのもよい。いずれにしても、何らかの形で取組を盛り込んでいく必要がある。

小野田委員：交流イベントなどの実施の際には、活動拠点として活用することを考えている。その他の事業などでも、効果的に活用していきたい。

若山委員：先日、この母子里地区に地域おこし協力隊のおふたりが来られたが、周辺住民のなかには、地域おこし協力隊が具体的に何をしてくれるのか、気にしている方が結構いて、その要望として多いのは冬期間の除雪である。しかしながら、役場としては、地域おこし協力隊に担っていただく業務としては難しいとのことだったので、その考え方などをお聞きしたい。

小野田委員：今回、この母子里地区に、地域おこし協力隊として2名配置されているが、その目的としては、本協議会での議論を経ながら、地域に人が定着してもらえるような取組を進めるために配置されたもの。具体的には、山菜ビジネスや、交流イベントの企画・運営などに携わっていくなかで、この母子里地区で収入を得る手段を模索しながら、将来的に地域への定着をめざしていただければと考えている。同時に、地域おこし協力隊としての立場を離れ、この母子里地区に暮らす住民のひとりとして地域での役割を果たしていくことも大切であるので、先ほどお話しがあった除雪については、地域おこし協力隊のいわゆる「仕事」としてではなく、あくまでも、地域の一員として役割を果たしていく形が望ましいように思う。

若山委員：除雪そのものが、地域おこし協力隊のメインの業務とは考えていない。ただ、高齢者支援という観点で考えた場合、この母子里地区で生活する上では、除雪の問題が大きなウエイトを占めることも事実である。

小野田委員：除雪のお手伝いそのものを否定しているものではない。この母子里地区で生活していく上では、非常に大きな問題であると思うが、あくまでも地域の一員として、隊員個人にご納得いただいた上で、可能な範囲で役割を果たしていく形が望ましいと考えている。繰り返しになるが、地域おこし協力隊の本来の業務ではないことをご理解願いたい。

多田会長：若山委員のお話にもあったが、住民の方々の声としては、屋根の雪下ろしや窓下の排雪など、高齢者の方を中心に要望が多かったのは事実である。屋根の雪下ろしは危険が伴うほか、屋根の形状などを把握した上で行うなど、ある程度の技術も必要である。経験がある人でも、かなり大変な作業である。ことから、地域おこし協力隊にお願いするのは、確かに問題があるが、冬場は本来業務もあまりないよ

うにも思うので、庭先の除雪など軽微な作業については、業務に加えても良いかと思うがどうか。地域の方々も、地域おこし協力隊のおふたりの仕事ぶりを注目しているし、非常に期待も大きいので、地域の方々との関わりを持つためにも、よい機会であるように思うがどうか。

小野田委員：地域おこし協力隊のおふたりは、今回、初めて北海道の本格的な冬を経験するということを念頭に置いていただきたい。おそらく自分の家の前の除雪だけでも四苦八苦されることと思う。まだお若いとはいえ、初年度ということもあり、体力的な面も非常に心配であるので、この辺のところを、地域の方々にもご配慮いただければありがたい。今後、生活が慣れてきて、余力が生まれれば、地域の一員として除雪のお手伝いをするという形がよいと思う。

日野委員：地域おこし協力隊のおふたりは、3年という限られた時間の中、まずは地域に定住するための手段を考えていただくことが大切である。その上で、山菜がビジネスとして成立するのか否かなど、我々として、どのようなサポートできるのかを真剣に考えていかなければならない。地域の声として、除雪も大切であるが、まずは地域に定住していただけるようしっかりとサポートしていく必要がある。

多田会長：日野委員のご発言のとおりである。これまでの間、この協議会でも議論してきたように、住民のために何かをしていただくのではなく、ご自分がこの母子里に定住するための何か仕事を見つけていただくことが基本である。その上で、余力が生じれば、地域のために何かお手伝いをしていただく形が望ましい。

若山委員：地域おこし協力隊のおふたりを、いわゆる「御用聞き」のような形で関わっていただく考えはない。この地域で生活する住民のひとりとして、月に2～3日は、地域のために何かお手伝いをしていただければありがたい。当然、はじめは雪下ろしなど、危険を伴うような作業は無理であるが、可能な範囲内で差し支えないので、高齢者宅の庭先の除雪などの協力をお願いできればと考えている。住民の方々と交流する機会にも繋がる。

小野田委員：高齢者支援の観点での除雪については、すでに役場の福祉サイドでも対応しているかと思う。その他の家について、地域おこし協力隊の立場を離れて、地域の一員として除雪のお手伝いをするのであれば、特に問題はないかと思うが、地域おこし協力隊の業務の一環として実施するのは難しいものとする。

大野委員：この協議会での議論の発端として、地域活動の担い手が不足しているなかで、今回、この母子里地区に2名の地域おこし協力隊がいらしているので、除雪などの問題については、別に集落支援員という制度もあるので、こちら制度を活用するのも一考の余地があるかと思う。今後、本日の会議の前段で議論のあった総務省の「過疎集落等自立再生対策事業」について、地域おこし協力隊が中心となって進めてい

くこととなるかと思うが、こちらの業務が本来のメインであるように思われる。雪が降るまでに残された時間は僅かであり、かなりの業務量となる。この母子里地区において除雪の問題が大きいことは理解するが、地域おこし協力隊のおふたりには、「過疎集落等自立再生対策事業」に関する業務に専念していただいたほうがよい。

多田会長：冬期間の除雪については、この母子里地区で大きな問題であり、議論の尽きないところではあるが、今回の事業にも盛り込まれている高齢者支援事業の部会のほうで引き続き協議していただければと思う。

小野田委員：除雪の問題についてであるが、役場の福祉サイドでも対応している部分もあり、既存制度との兼ね合いなども考えていく必要があるかと思うので、役場に持ち帰り、担当部署と調整させていただきたい。その上で、再度協議いただければと思う。

多田会長：次の議論に移りたい。前段でお話したとおり、今回、総務省の「過疎集落等自立再生対策事業」が採択され、今後、具体的な取組を進めていくこととなるが、細かい部分については、それぞれ4つの柱に沿った部会のような組織を設置し、各部会が中心となって進めていただきたいと考えている。

橋本委員：賛成である。多田会長おひとりに負担がかかりすぎるので、それぞれの案件ごとに部会に設置し、それぞれの部会で進めていくほうがよい。
※各委員とも異議なし

多田会長：ご異議なければ、私のから各部会の中心となっていただく方を推薦したい。このほか、本会の委員以外にも、住民の方々にもお声かけをし、各部会への参画をお願いしていく予定である。

<部会>

- 高齢者支援事業部会：日野委員（サブ 橋本）
 - 地域交流イベント事業部会：岡本委員（サブ 渡来、若山）
 - 地域資源発掘・活用事業部会：多田会長（サブ 渡来）
 - 地域コミュニティ活性化事業部会：橋本委員（サブ 多田）
- ※ 地域おこし協力隊2名は全ての部会に関わるが、後日、隊員同士で話し合い、参画する部会を役割分担する。

多田会長：議論の尽きないところであるが、本日の会議はこれで終了する。

～ 閉 会 ～